

年頭のご挨拶

クロマトグラフィー科学会会長
金澤秀子

クロマトグラフィー科学会会員の皆様、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。
日頃より本学会の活動にご理解ご支援賜り感謝いたしております。

私儀

この度伝統ある本学会の会長という大役を仰せつかり、誠に光栄でありますとともに、身の引き締まる思いでございます。この重責を真摯に受け止め、学会運営に関しましては、諸先輩方をはじめ多くの方々のご助言を仰ぎながら、国際化の尚一層の推進と学会の活性化を目標にしていきたいと思っております。その第一歩として新理事会には新たに2名の女性理事、そして評議員には次世代のコアとなる若手の方々にも参加して頂くことになりました。また、異例のことではありますが、学会活動の継続性を慮り、副会長は前会長の太田浩二先生にお願いすることになりました。さらに本学会を強固な体制で運営していくために事務局長の齊戸美弘先生と編集委員長の浜瀬健司先生には留任をお願いしております。太田副会長をはじめ、事務局長、編集委員長、理事の方々とともに本学会の益々の発展のために微力を尽くしてまいりたいと存じますので、会員の皆様のより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

クロマトグラフィー科学会は、学会設立以来27年間に亘り、クロマトグラフィー関連の研究に携わっていらっしゃる方々の情報交換の場として、年2回シンポジウムと科学会議という形で学会を開催しております。昨年は、第22回シンポジウム（2015年6月・近畿大学・大阪）、第26回科学会議（2015年11月・九州大学）で開催され、いずれも大変盛会でした。これもご尽力いただきました大会長はじめ実行委員の方々とそして何よりご参加いただきました会員の皆様のサポートの賜と厚くお礼申し上げます。

このように本学会は、年2回の学術会議（シンポジウムと科学会議）の開催、特にクロマトグラフィー関連の分野で優れた研究を行っている会員の方へ学会賞や奨励賞等の褒賞の授与等の活動、そして会誌（CHROMATOGRAPHY）の編集発行を要としております。CHROMATOGRAPHY誌は通常号を年間3号、学術会議要旨集を年間2号発行しておりますが、掲載論文へのDOI付与並びにJ-STAGEへの掲載により論文誌としてのプレゼンスを高め、国際的にも認知され得る存在価値の高い論文誌へと成長させるための取組みをおこなっております。特にJ-STAGEにおいては、掲載受理が決定した論文を直ちにWeb上で公開する早期公開にも対応しており、一流論文誌となるべくインパクトファクター（IF）の取得を目指して、編集体制が着々と確立しつつあります。本学会会員の皆様におかれましては、このような取組みにご理解頂き、IF取得のためにもCHROMATOGRAPHY誌への積極的なご投稿をお願い致します。

クロマトグラフィーは、今や医・工・農・薬等のほとんど全ての分野で汎用されており、現在の科学研究や社会生活を支える基盤となる技術のひとつであると言っても過言ではありません。そのような意味においてもクロマトグラフィー関連分野の基礎から応用まで幅広い学術的領域の発展に寄与することを目的としている本クロマトグラフィー科学会の役割は小さくないと考えております。本年度は、前会長が推進してこられた幅広い研究分野との融合・協力関係の強化と国際化推進の基本路線を踏襲するとともに、さらなる活性化を目標に、会員の皆様と一緒に良い学会にしていきたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。